

【一】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

空港や駅、街の中にも「方言」で呼びかける様々なタイプのサインがあふれています。そうそう、旅行に出かけたりすると、おみやげとして多彩な「方言」グッズが売られていることにも気がつくでしょう。誰かのおみやげあるいは自分の記念として、手元にそんな「方言」グッズをもっている人も少なくないのではないのでしょうか。

二〇一一年の東日本大震災の折には地元の「方言」による応援メッセージが各所で自然発生的に用いられ、「方言」の効能が再認識されました。二〇一六年の熊本地震に際しては発生からほとんど間を置かず、ウェブ上に「方言」を用いた応援メッセージや支援サイトが登場し、それらはSNSなどを通じて一気に拡散していきました。

こういった「方言」をとりまく状況がぴんとこない人は、検索エンジンの窓に「方言」というキーワードを入力して検索をしてみてください。瞬間的に一〇〇〇万を軽く超える、しかもじつに多様な結果が返ってくるでしょう。学術的な成果にかんするお堅い内容のものや各種の方言解説サイト、医療・福祉の現場における方言のあり方などから冒頭で示したような「やわらかい」内容の「方言」にかかわるコンテンツ類まで、大量かつ多彩です。

このように「方言」が様々な場面において大量に、そして多様なかたちで用いられているということは、こんにちが「方言」を「価値あるもの」としてポジティブに受容する時代であることを意味します。そのような状況があまりにも日常的であるため、昔からずつとそうであったかのように思うかもしれません。しかし、「方言」をポジティブな価値あるものとして受けとめる態度は、比較的近年わたしたちの目の前にせり出してきたものに

過ぎません。

一九七〇年代の終わりごろまでは、標準語に価値をおく考え方が支配的でした。この背景には、明治期における国家の近代化政策の一環^{いっかん}として推進された標準語政策が大きく関与^{かんよ}します。標準語政策とは、近代的な国家観、すなわち、一つの国家に一つの国語＝標準語という考えに基づくものですから、各地に存在する多様な「方言」は、①として位置づけられ、撲滅^撲されるべきものとして捉え^{とら}られていたのです。

戦後も、高度経済成長がスローダウンするまでは、中央集権的・東京一極集中的考え方が主流で、地方を象徴^{しょうちよう}するものとして「方言」を低くみる考え方は継承^{けいしょう}されました。そのため、長く「方言」は「恥ずかしい」「かつこ悪い」「隠^{かく}したい」ものだったわけです。高度経済成長期の一九五〇年代半ばから一九六〇年代にかけての新聞記事や投書を読むと、②そのことがよく分かります。高度経済成長を支えた地方からの上京青年たちが自身の「方言」を笑われたことを契機^{けいき}に緘黙^{きんもく}状態に陥^{おちい}る、（A）深刻なケースとしては自ら命を絶^たつあるいは殺人事件に発展するという悲しい事件が、少なからず報じられています。

このようなことを踏まえると、少なくとも一九七〇年代までのアイドルがアイドルとしてふるまうに際して、戦略的にせよ、③こんにちのように自ら「方言」を用いて積極的に発信するなどということは、考えにくい時代であったことが想像できるでしょう。

それから、見逃^{みのが}しがちですが、先に示した多様なコンテンツ類にあらわれる「方言」は、元々の意味における方言に備わる「特定の地域と結びついたリアルな生活の中で使われる素^すのことば」とは異なるものであるということを意識しておくことも重要です。

コンテンツ類にあらわれる「方言」は、「素のことば」がそのまま使われているのではないという認識です。いわば生活のことばとしてのホンモノの方言に対して、何らかの水準において編集・加工を経て再提示されたもの、それが各種コンテンツ類で用いられている「方言」であるということです。

一般に「方言」といった場合、最初に喚起されるのは、地域と結びついた生活のことばとしての「素のことば」であるホンモノの方言です。それとは別に、コンテンツ類などに再現される編集・加工を経た仮想の方言が存在します。（B）、「方言」には少なくともこの二つの水準が認められるということに気づいておいてもらいたいと思います。

ここからは、両者を区別するために、前者を「リアル方言（本方言）」、後者を「④ヴァーチャル方言（仮想方言）」と呼ぶことにします。ヴァーチャル方言の典型は、ドラマなどの創作物において用いられる「方言」です。この意味においてヴァーチャル方言は、日本語社会で暮らす人々の頭の中に共有される「○○方言」と言い換えることも可能です。

ヴァーチャル方言のなかには、方言の根幹であるはずの「特定の土地との結びつき」から解き放たれた用法をもつものも存在しています。元々、ある「方言」を使うということはその人がその「方言」の分布する地域で生まれ育ったか、少なくとも保育者がかかわっているなどの地域との密接な結びつきを示すものですが、そうではない用法が認められるということなのです。

土地との結びつきから解き放たれた「方言」を用いた典型的な言語行動としては、自分の生まれ育った地域の方言ではないもの、いうならば「ニセ方言」あるいは「なんちゃつて方言」を使うという行為を指摘することができます。

そう、関西人でもないのに「なんでやねん」とつつこんだり、土佐人でもないのに「行くぜよ！」と「龍馬語」でスカツと言いつたりする、そのふるまい——「方言」に付随するステレオタイプを用いてある種のキャラを臨時的に発動させることばを用いたコスチューム・プレイ、「⑤方言コスプレ」——のことです。

もちろん、地元の方言を編集・加工した「分かりやすく処理された地元の方言（ジモ方言）」を用いて、より「地元人らしく」ふるまう、これもヴァーチャル方言を用いた「方言コスプレ」の一種です。

さらには、もはや方言ステレオタイプを用いたキャラ発動というレベルからも逸脱し、単なるキブンの切り替えツールとして「方言」を用いる行動も目に付きます。（C）「関西弁」由来の一人称の「うち」や「めっちゃ」「しんどい」などは、「関西方言」として意識されず、ちよつとキブンを切り替えるための表現として全国に浸透していると見ることもできるかもしれません。

（田中ゆかり『方言萌え!?——ヴァーチャル方言を読み解く』岩波書店）

《語注》

- * 1 撲滅……病氣や悪いものをすつかりなくすこと。
- * 2 緘黙……口を閉じて何も話さないこと。
- * 3 付随……ある物事が他の物事につき従っていること。
- * 4 ステレオタイプ……特定の集団に対して多くの人が持つ決まったイメージ。

問一 空らんAとCにあてはまる言葉としてふさわしいものを次の記号からそれぞれ選
びなさい。

ア たとえば イ しかし ウ つまり エ なぜなら オ さらに

問二 ①にあてはまる言葉としてふさわしいものを次の記号から一つ選びなさい。

ア 明治期における近代的な国家観を表したもの
イ 一九七〇年代までの標準語政策を推し進めるもの
ウ 一つの国家の象徴である標準語の普及を妨げるもの
エ 戦後の高度経済成長をスローダウンさせるもの

問三 ぼう線部②「そのこと」とありますが、それはどのようなことですか。文中の語
句を用いて六十字以内で説明しなさい。

問四 ぼう線部③「こんにちのように自ら『方言』を用いて積極的に発信するなどとい
うことは、考えにくい時代であったことが想像できるでしょう」とありますが、
方言について「こんにち」はどのような時代であると述べていますか。文中から
二十八字でぬき出し、最初と最後の五字をそれぞれ答えなさい。（記号も一字に含
みます。）

問五 ぼう線部④「ヴァーチャル方言（仮想方言）」とありますが、これについて説明

したものとしてふさわしいものを次の記号から一つ選びなさい。

ア ある基準にしたがって作り直された方言

イ 地域の生活と結びついた素の方言

ウ 多様なコンテンツ類を編集・加工する方言

エ 特定の地域で暮らす人にだけ共有される方言

問六 ぼう線部⑤「方言コスプレ」とありますが、これについて説明したものとしてふ

さわしいものを次の記号から二つ選びなさい。

ア 生活する土地とは異なる場所の方言を用いて、特有のキャラを一時的に身にまとうこと。

イ 生まれ育った場所ではない地域の方言を使い、その土地の生まれであるかのよう

うにいつわること。

ウ 暮らしている土地の生活に結びついた方言を使い、気軽にキブンを切り替えること。

エ 地元の方言を分かりやすく処理した言葉を用いて、地元人らしさをさらに高めること。

オ 土地との結びつきが深い方言を使い、付随するステレオタイプから解き放たれること。

問七 次のうち、本文中の内容と合っているものに○、まちがっているものに×を付けなさい。

X 土佐人でもない人が「行くぜよ！」と発言する場合は、その人の両親のうちどちらかは土佐人である。

Y 関西人以外の人が「なんでやねん」とつつこむことも、方言の用法として認められるものである。

Z 「しんどい」はキブンを変えることばとして全国に浸透しているため、関西弁として強く意識される。

【二】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

中学生のダイ（「おれ」）は小学生のころに友達に万引きの罪をなすりつけられたことや、陸上部での練習中に骨折したことをきっかけに、無気力な日々を過ごしていた。少し前から地域の中高生が利用できる活動の場、「サプリガーデン」へ通うようになっていく。次は、学校をサボったダイに、「サプリガーデン」の利用者であるキーマさんがホットケーキをふるまう場面である。

「うまつ」

キーマさんが眉毛^{まゆげ}を上げると、ケンケン^{まゆげ}はふっとほおをゆるめた。

「ホットケーキって、たまに①むしように食いたくなるよな」

「だよなー」と、キーマさんがうなずき、話を続ける。

「企画^{きかく}出しのしめきりは、二月二十日^{きかく}でいいかなあ」

「いいと思うよ。運営^{えんぎん}スタッフの募集^{ぼしゆう}はいつまでにする？」

フェスの打ち合わせがはじまったらいい。

おれはふたりの会話を聞きながら、ホットケーキを口に入れた。ふんわり、あたたかい食感に、ほっと体の力が抜^ぬける。この感覚は久しぶりだった。

おれはずっと、力を入れっぱなしだったのかもしれない……。

口の中のものをかみしめると、②なぜか目のおくが熱^{あつ}くなった。

自分でも自分をもてあましているのに、キーマさんは最初から変わらず、おれに接してくれた。もうそれだけで、十分いい人だろ。

「そうそう、知らせてなかったけど、アイドルチーム、できたんだよ」

キーマさんが、手に持ったフォークを軽くふる。

「瑞希にマネージャーを頼んだら、南高のダンスサークルに声をかけてくれて。そいつらがおもしろがって、いっしょにやってくれることになったんだよ」

「へえ」

瑞希って、サブリ食堂にいたショートボブの女子だよな。マネージャーを頼むなんて、おれじゃ、絶対に思いつかねえ。

「③キーマさんは、なんでそんなに堂々とやりたいとか、やろうって言えるんすか？」
思わず聞くと、キーマさんは少し考えてから口を開いた。

「サブリがやりたいことを応援してくれる場所だからっていうのもあるけど、一番は、父親が亡くなったせいかな」

④ずっと、背中が冷えた。ごくりと息をのみこむ。

キーマさんの目が、きりつとしまった。

「父親はおれが小二の時に亡くなったんだけど、急なことだったから、わけがわからなくてさ。おれは、しばらく泣いてばかりいた。それからだいたい経って、高学年になった頃かな。やりたいことは、やりたい時にやろうって思うようになったんだよね。特に意識はしていないけど、いつ死ぬか分からないって、どつかで思っているんだろうな」

他人事のように淡々と語る。

「こういう話をする、同情されちゃうじゃん？ でも、同情されたからって、おれの状況が変わるわけじゃない。おれが楽しくなるためには、自分で楽しくするしかないよね」

ぐさつときた。

おれだって、努力しなかったわけじゃない。骨折も、万引き犯にされたのも、おれのせいじゃない。けど、そうやって自分を哀れ^{あわれ}んでいたって、なにも変わらない。学校をさぼって自転車を乗りまわしたって、なにも変わらなかった。

⑤ わかつてる。わかつてるけど……。

おれはホットケーキに目を落とした。シロップのしみこんだ部分が、黒っぽいしみになっ
っている。

「ダイは、なにかやりたいことあるの？」

ケンケンに聞かれて、おれははっと、顔を上げた。

A

「……ない……っす」

「なら、おれたちといっしよに、フェスの実行委員をやるーぜ！」

キーマさんがぐつと、前のめりになる。

「え……」

いっしょという言葉に、おれは体を引いた。

「実行委員って、なにやるんすか？」

「フェスの運営だよー。全体のテーマを決めて、みんなのやりたいことをまとめて、タイムスケジュールを組んだり、舞台^{ぶたい}展開を考えたり。まあ調整ともしりあげ役だね」

キーマさんに続いて、ケンケンも前のめりになる。

「学校ではできなかったことも、サプリのフェスでならできるかもしれない。学校とはちがう自分を表現できる場なんだ。ダイもやったら、はまると思うよ」

おれがどうしようか考えていると、

「あつ、忘れてた」

キーマさんがガタンツと、席を立った。キッチンコーナーの冷蔵庫から取り出したものを、シンクでさつと水を通して持ってくる。

テーブルに置かれたのは、イチゴのパックだった。ぺろりとめくれたラップに『規格外品』というシールが貼^はられている。

なんだ、規格外品もふつうに売られているのか……。

B

「これ、安かったんだよ」

キーマさんが、二粒^{つぶ}がくつついたような形のイチゴをつまんでかじる。

「うん、あまい。ダイも食べな」

おれもひとつつまんで、かじった。あまずっぱさが口中に広がる。

「うまつ」

声に出して言うと、キーマさんが「だろ？」と、ほほえんだ。

なんだ十分うまいじゃん。つか、規格外品のほうが規格品より食べごたえがあつて、うまいんじゃないかね？

おれはイチゴのへたをとって、残った部分を口に入れた。

「さあ、ワイロも受けとったんだから、実行委員やらなきやな」

いたずらっぽく笑うケンケンに、「詐欺^{さぎ}じゃん！」とツツコみを入れて、おれも笑う。

C

なら、⑥差しだされた手をつかんでみるのも、いいんじゃないか。

この人たちといっしょなら、楽しいことができるんじゃないか……。

「や……やります」

「やった！」

キーマさんが喜び、両手を上げて「うえーい」とタッチを要求してくる。

おれは「大げさだな」と苦笑いで、タッチを返した。

フェス実行委員をやるぐらいで、なにかが大きく変わるとは思えない。けど、壁にかかった時計を見ると、十二時二十分を過ぎていた。

これから学校に行くか、このままさぼるか。

おれは少し考えて決めた。

(ささきあり『サード・プレイス』フレール館)

問一 次の一文があてはまるところとしてふさわしいものを、文中の A から

一つ選びなさい。

へもやもやしていたものが、少しずつ晴れていくように感じた。

問二 ぼう線部①「むしろように」の意味としてふさわしいものを次の記号から一つ選びなさい。

- ア すぐに
- イ たくさん
- ウ やたらと
- エ 思いっきり

問三 ぼう線部②「なぜか目のおくが熱くなった」とありますが、その理由としてふさわしいものを次の記号から一つ選びなさい。

- ア ホットケーキを食べたことで、キーマさんの優^{やさ}しさを感じたから。
- イ キーマさんとケンケンの話を聞いて、気持ちが楽になったから。
- ウ 過去の出来事を思い出したことで、悲しみがこみ上げてきたから。
- エ 学校をさぼっていることに気がつき、反省する気持ちになったから。

問四 ぼう線部③「キーマさんは、なんでそんなに堂々とやりたいとか、やろうって言えるんすか？」とありますが、この質問に対する答えを、「父親」という語句を用いて五十文字以内で説明しなさい。

問五

ぼう線部④「ずっと、背中が冷えた。ぐくりと息をのみこむ」とありますがこの時の「おれ」の様子としてふさわしいものを次の記号から一つ選びなさい。

ア キーマさんが何を話し出すか分からず、身構える様子。

イ キーマさんの話し方が変わったことで、恐怖を覚えている様子。

ウ キーマさんが暗い表情になり、あせりを感じている様子。

エ キーマさんの話が意外な内容で、緊張きんちようしている様子。

問六

ぼう線部⑤「わかってる。わかってるけど……」とありますが、この時の「おれ」の心情としてふさわしいものを次の記号から一つ選びなさい。

ア 同情されても意味がないと思う一方で、自分で自分を楽しませたいという気持ち。

イ 自分が努力しなければ何も始まらないと感じる一方で、どうせ何も変えられないとあきらめきった気持ち。

ウ 自分で自分を変えるべきだと感じる一方で、そのために行動する勇気が出ない気持ち。

エ 過去の出来事は自分のせいではないと思う一方で、学校をさぼってでも何かを変えたいという気持ち。

問七 ぼう線部⑥「差しだされた手をつかんでみるのも、いいんじゃないか」とありますが、「差しだされた手をつかむ」とはどのようなことを意味しますか。三十字以内で説明しなさい。

問八

⑦にあてはまる言葉としてふさわしいものを次の記号から一つ選びなさい。

ア なにもやらないよりは、きっとマシだ。

イ キーマさんの頼みなら断りにくいし、仕方ない。

ウ 学校に行くくらいなら、やってみてもいい。

エ 実行委員を頑張^{がんば}って、現状を大きく変えてみたい。

問九

本文の内容と合っているものを次の記号から一つ選びなさい。

ア ホットケーキの「黒っぽいしみ」は、ダイとキーマさんの気まずい関係を表している。

イ キーマさんが「ガタンッ」と大きな音を立てて席を立ったことで、ダイとの間に緊張感が生まれている。

ウ ダイは「規格外品」とされていたイチゴに今の自分を重ね、前向きな気持ちになった。

エ ダイがキーマさんと「タッチ」をする様子からは、ダイが以前からフェスの運営をしたがっていたことがうかがえる。

【三】次のぼう線部の漢字の読みをひらがなで答えなさい。

- | | |
|--------------------------|-----------------------|
| ①とても貴重 <u>な</u> 史料を入手した。 | ②この建物は電氣系統の調子が悪い。 |
| ③相手に筋道を立てて説明した。 | ④柱が地面と垂直に立っている。 |
| ⑤真つ白い布を青く染めた。 | ⑥水は加熱すると蒸発しやすくなる。 |
| ⑦各国の首脳が集まった。 | ⑧大雨のあとで、河川があふれそうになった。 |
| ⑨工事の期間が延びた。 | ⑩時計の短針が壊れてしまった。 |

【四】次のぼう線部のカタカナの言葉を漢字に直しなさい。

- | | |
|-------------------|--------------------|
| ①選手たちはリッパに戦った。 | ②魚のナイゾウを取り出す。 |
| ③古い家のカイダンがきしむ。 | ④野球の試合をコウフンしながら見る。 |
| ⑤センモンの先生に相談した。 | ⑥前向きなシセイで仕事に取り組む。 |
| ⑦はげましの手紙にカンゲキした。 | ⑧限りあるシゲンを大切に使う。 |
| ⑨ツウヤクのおかげで会話ができた。 | ⑩皿をワってしまった。 |

【問題は以上です。】

解答用紙

氏名

問一	A
	B
	C

[illegible]

問一			
問二			
問三			
問四			

[illegible]

⑥	①
⑦	②
⑧	③
⑨ (びた)	④
⑩	⑤ (めた)

⑥	①
⑦	②
⑧	③
⑨	④
⑩ (つて)	⑤